

令和5年度 税についての作文

公益社団法人八尾納税協会 会長賞受賞作品



作品名 命を支えている税金 松原市立松原第二中学校 三年坂本花恋

私は、コロナ禍でワクチン接種を無償で接種することができたことや、病院を受診した時に子供は医療費を払わなくても良いということに気づき、医療に使われている税について調べました。

まず、新型コロナウイルスのワクチン接種は自治体や国が全額公債で行なったため、無償で接種することができました。コロナ禍で国民が一人でも多くコロナに感染するリスクを減らすために取ってくれた政策の一つで接種を受けた私達もすごく助かったので税金は国民をこういった形で支えてくれているのだと思いました。

また、日本は医療の自己負担が七十五歳以上の者は一割。七十歳から七十四歳までの者は二割。就学児童から七十歳未満の者と七十歳以上の者も現役並みの所得者の場合は、三割。未就学児童以下の者は二割でとても自己負担額が少ないのです。なお、未就学児童の自己負担額は本来二割ですが、東京都大阪府など一部の自治体は医療の助成制度を設け自治体の財政でまかなっているため一部の地域では未就学児童は無償で医療を受けることができます。手術代や入院代も三割ですが、かなりの費用がかかります。そこで使える制度として後日申請すれば医療費の一部が戻ってくる、高額医療費制度があります。結果日本は、少ない自己負担で質の高い医療サービスを受けることができるのです。病気になったら病院に行きなさい、ケガをしたなら病院に行きなさいは国や自治体だけでなく支援や政策の中でも使われている税金や保険金が医療を支え続けてくれているおかげだということ学びました。

このように、たくさんの国民を支えている医療費の一部は税金や保険金で元をたどれば国民のお金です。しかし、そうやって国民全体で出しているお金はめぐりめぐって誰かの病気やケガを治すための手助けになっているということです。税金や保険金を通して、国や自治体と国民全体は支え合っているのだと思いました。これらのことから、私自身も支えられている税金や保険金は生活の中に必要不可欠なモノなのだと思います。私が納めている税金は消費税くらいでとても少ないけどその少ないお金も誰かの役に立っていてくれたらいいなと思いました。